

令和3年度 第2回学校評議員会議事録

1 日 時 令和4年2月17日(木) 14:00～15:00

2 場 所 水沢高等学校会議室

3 出席者

○学校評議員(敬称略)

花田 英夫 小野寺 和人 菅原 敏
山下 明

□教職員

校長 菅野誠二 副校長 田鎖伸也 事務長 富手明美
総務主任 高橋直文 教務主任 去石 淳 生徒指導課 佐々木明志
進路指導主事 目黒賢哉 保健主事 菅野 純 SSH主任 鈴木竜矢

4 次 第

(1) 開 会 (2) 校長挨拶 (3) 令和3年度教育活動報告
(4) 協 議 (5) 閉 会

5 内 容

(2) 校長挨拶

本日はご多忙の折、4名の評議員においでいただきました。これまでのご指導に心より感謝申し上げます。現在、コロナ禍において、これまで以上に厳しい状況が続いており、学校への影響を最小限にとどめながら教育活動を進めているところ。また、この評議員制度は今年度をもって終了し、新年度からは「コミュニティスクール」へ移行する。学校運営協議会の委員は4月をめどに決定する予定。そして、評議員会最終年度の今年、第1回は、学校経営計画について説明したが、本日の第2回は学校関係者評価委員会と位置づけ、今年度の学校経営について評議員の皆様からいろいろとご助言いただきたい。

さて、110周年記念事業について、昨年より延期していた記念式典は結局中止となったが、記念講演会は、東北大学大学院医学部教授の亀井 尚先生にお願いして実施することができた。また、4期19年続けてきたSSH事業については今年度をもって終了し、新年度からはSSH事業で培った成果をもとに学校の特長を生かして自走していきたい。理数科は「理数探究」の中で科学的分野における課題研究に取り組み、実験を通して、検証し科学的思考を養う。また、普通科は「総合的な探究の時間」の中で奥州を学びのフィールドにしなが、グローバルな視点で地域を見つめ、課題を見出し、問題解決のためのアクションを起こす形を目指したい。新年度から採用する新しい制服については、昨年度以来、生徒たちが自分たちの制服について話し合い、生徒たちの意見を取り入れて決めてきたことに価値があった。新しい制服へ移行する準備は順調に進んでいる。これからも水沢高校は、全人的な教育を目指して邁進していきたい。

(3) 令和3年度教育活動報告

副校長より(資料参照)

今年度はコロナ禍において、本来あるべき行事や事業が行えないこともあり影響はあったが、ICT機器の利活用を通して全校集会やHR、授業等を実施してきた。今年度末に実施した学校評価アンケート結果より報告する。

まず、生徒から「学校側の取り組み」に対する評価度はおおむね80%以上の評価を得た。その中で、学校からの保護者、中学校、地域への情報発信に関わるものが低くなっている。「生徒自身の取組」に関してもクラスへの満足度、学校生活の充実や将来について考える機会が多いなど昨年度に引き続き評価度が高い。ただ、地域の行事やボランティア活動への参

加の評価度はコロナ禍にあって引き続き低い。

次に保護者から「学校の生徒への指導、取り組み」については、家庭から一定の評価を得ているのではないかと考える。一方、部活動、学校行事など生徒の自主的な取り組みについては、評価度が低く、コロナ禍による学校行事の制限、中止等が要因であると考えられる。

教職員評価度に関しては、校内外における研修機会が少なくなってきたという評価でコロナ禍の影響が出ている。

各課主任より（資料参照）

生徒課から、地域と連携しながら生徒の多様な活動を支援していきたい。

進路課から、共通テストが始まった。推薦入試については国公立大学も入学定員の3割を占めており、対策を強化して行く必要がある。

SSH課から、通算4期19年間の活動を終え、研究テーマ1「自立・自律した行動力を持った人材の育成」研究テーマ2「国際性を兼ね備えた人材の育成」の成果を今後の教育活動に活かしていく。

(5) 協議 ※ 評議員は○ 学校側の発言は□

- 学校評価アンケートについて、回答は無記名か。また、設問内容や評価方法は学校独自のものか。
- 学校評価アンケートは無記名で実施している。また、アンケート項目は学校独自のものを経年比較できるように分析して評価している。
- 生徒・保護者向け学校評価項目番号1の「活力と魅力ある学校づくり」の学校の魅力について、水沢高校の魅力を具体的にどうとらえているか。
- SSHのような特別な事業だけではなく、学校行事や授業、部活動の充実など日常の学校生活の中にあるものだと捉えている。
- オンライン授業等、生徒のPCへの対応状況はどうなっているか。
- 岩手の「学びの改革プロジェクト」の研究協力校として水沢高校はICTを活用した教育の実践を期待されている。県からは1年生は一人一台のタブレット端末、2・3年生には二人で一台のタブレット端末が配置された。主体的・対話的で深い学びにつなげることが肝要であり、一人一台端末で学んできた新年度の入学生に対応する意味でも、どのように活用できるか研究中である。

今年度は学校行事でオンラインを活用する機会が多かった。また、理数科等の県内大会での発表もオンラインで実施した。生徒たちの発表の中には、演示実験を拡大して見せるなどオンラインならではの工夫も見られた。
- 保健厚生課資料の中の「災害発生状況」の災害とは何か。
- 授業中や部活動中など学校教育活動管理下における怪我等の発生状況のことである。
- 新型コロナに罹患した生徒が出た場合の学校閉鎖等の要件はどうなっているか。
- 管轄保健所からの指示にもよるが、指示を待てられない場合、実際には県教委と協議の上で学校が判断して行っている。学校生活を一緒に送っている以上、同一学年で複数出現した場合は、学年閉鎖が原則だと考えている。
- 保育園を運営しているものとして同じ様な苦勞をしている。コロナ禍における学校側の最大限の努力を評価したい。また、いつか野球グラウンドに電光掲示板を設置してほしい。地域スポーツにも刺激となるのではないかと考えている。
- 岩手日報などでも取り上げていたが、応援歌練習はなくなるのか。現在水沢高校にバンカラはいるのか。
- バンカラは応援団が先輩から後輩に受け継ぐ形で続いている。応援歌練習については、

下級生に怒鳴りつけるようなことは今後なくなる。

- コミュニティースクールの学校運営協議会はどうなるのか。
- 校内委員も含め、委員 15 名以内で構成する予定。任期は一年で、再任も可となる。学校運営について話し合う場であり、具体的中身はこれから検討する。
- 中学校でやっているような、地域の人が指導者となって部活動や授業に関わるようなことはあるのか。
- お話のとおり、学校と地域を結び付けてくれる方が協議会委員になってもらえることが望ましい。
- 学校近くの花壇の一部を水沢高校の J R C 委員会が作ってくれた。町内会と一緒に今回の取り組みに大変喜んでいる。今後ともコミュニケーションづくりの場として協力をお願いしたい。
- 花壇の表示に J R C 委員会の活動を紹介していただき感謝します。
- 最後に、評議員会としては今年度で終了し、新年度は新しい形でスタートとなります。評議員の皆様、本日は大変有難うございました。

記録担当 総務課 菅原